

■「効果の見える治水事業」  
高知県 鏡川（神田川）広域河川改修事業

高知県高知土木事務所長 ながの せい せい 聖



神田川は高知市市街地を縦貫する二級河川鏡川の一次支川で、流路延長約6.1km、流域面積約7.6km<sup>2</sup>の河川です。神田川流域は鏡川右岸の低平地に位置し、昔は高知市街地を洪水から防ぐ遊水機能を併せ持つ耕作地でありましたが、高知市への人口集中に伴う宅地化等が著しい状況にあります。加えて、神田川は低平地を流下しているため河床勾配も

緩いことから、昭和50年8月の台風5号、昭和51年9月の台風17号では甚大な被害が発生しました。神田川中下流部は、昭和50年度から平成3年度にかけて激甚災害特別緊急事業及び中小河川改修事業等により改修を行い完了しています。

その後、平成16年度から神田川上流部の住宅が密集している針木地区の河川改修工事に着手し、改修区間L=0.4kmのうち約0.3kmが完了しています。この区間が完了する以前の平成13年5月豪雨、平成16年10月の台風23号、平成22年10月の豪雨では浸水被害が発生しましたが、当地区下流部から順次改修を行った結果、平成26年8月の台風12号では浸水被害の発生はなく、河川改修による整備効果が発現されています。

今後は、約0.1kmの未改修区間の改修が必要ですが、この区間の改修が完了すれば、更なる整備効果が発現されるものと考えています。今後も引き続き、地元住民のみならず関係機関の協力を得ながら、完成を目指し整備を進めてまいります。



H22.10 豪雨  
時間最大雨量 85 mm  
24 時間雨量 186 mm



H26.8 台風12号  
時間最大雨量 85 mm  
24 時間雨量 422 mm

出水時状況写真

■自然災害に備え、市民とまちの安全をさらに高める。

高知市長 おかざき せいや せい 誠也



高知市は、四国南部のほぼ中央に位置し、市域面積は308.99km<sup>2</sup>、人口約33万4千人の中核市です。

市域北部の北山に源を発する平成の名水百選に選定された清流鏡川の下流域を中心に都市が形成されており、中央の平野部は標高が低く、特に河口付近には約7km<sup>2</sup>にわたって海拔ゼロメートル地帯が広がっています。

また、年間を通じて降水量が多く、特に夏から秋にかけては台風の進路にあたり、年によっては3,000mmを越す降水量があることから、過去において幾多の水害を経験しています。

本市ではこれまでの浸水被害等を分析し、ハード・ソフト両面から水害に強い「安全・安心のまちづくり」を進めています。

急速に市街化が進んでいる市の西南部に位置する朝倉・鴨田地区では、昭和50年、51年の連年台風による大規模な集中豪雨とともに、神田川を中心に高潮災害により甚大な浸水被害が発生しました。

このため、激甚災害特別緊急事業及び中小河川改修事業等により抜本的な河川改修が進められ、浸水による被害は飛躍的に解消されてきています。

気候変動などに伴い多様化するゲリラ豪雨災害や南海地震などの大規模災害に対応するためには、被害を最小化する減災対策が最も重要であり、先に実施した高知市民意識調査においても防災施策の重要度が高まっていることから、地域住民の皆様とともに、さらなる災害対応能力の強化をめざします。



鏡川と神田川の合流点



朝倉・鴨田地区